

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：輸出植木のホスチアゼート剤根鉢浸漬処理による線虫防除			
[要約] ホスチアゼート30%液剤の根鉢浸漬処理により、植木の根鉢部分のネグサレセンチュウ類の密度が低減される。			
キーワード：ホスチアゼート、植木、輸出、線虫、防除			
実施機関名 主 査 農業総合研究センター・生産技術部・花き緑化研究室 協力機関 農業総合研究センター・生産環境部・応用昆虫研究室			
実施期間 2006年度			

[目的及び背景]

海外の日本庭園ブームを受け、イヌツゲやイヌマキ等の造形樹の輸出が急増している。EU諸国は土付きの輸入が認められており、根巻き状態の株で輸出されているが、近年、輸入検疫時に線虫類が検出され問題となっている。

そこで、根巻き状態の株に対する殺線虫剤「ホスチアゼート30%液剤」の処理効果を明らかにし、本剤の植木類への農薬登録の適用拡大を図る。

[成果内容]

- 1 植木の根鉢内の線虫密度は、ホスチアゼート30%液剤500～2,000倍希釈液処理により低減する(表1)。
- 2 線虫の密度抑制効果は樹種による差がない(表2)。
- 3 ホスチアゼート30%液剤処理の効果は、処理直後から認められ、2か月後まで継続する(表2)。
- 4 夏季処理では樹種により薬害が若干発生するが、冬季処理では薬害が発生しない(表3)。

[留意事項]

- 1 平成19年9月19日付けで「植木類」に対して農薬登録の適用拡大が認可された。
- 2 ホスチアゼート30%液剤の希釈倍率は1,000倍、浸漬時間は、6号鉢程度の根鉢で層と入れ替わり薬液が十分浸透する10分間である。
- 3 幼木や、樹高の割に根鉢・根巻きが極端に大きな木は、本剤浸漬処理により薬害を生じることがある。
- 4 薬剤添付の説明書に留意して使用する。

[普及対象地域]

県下全域の植木生産者

[行政上の措置]

農作物病害虫雑草防除指針への掲載

[普及状況]

[成果の概要]

表 1 ホスチアゼート30%液剤によるネグサレセンチュウ類防除効果

供 試 薬 剤	希釈倍率	ネグサレセンチュウ密度(頭/土壌20g)		比数
		処理前	処理7日後	
無 処 理		298.0	72.5	100
ホスチアゼート30%液剤	2,000	367.0	31.0	43
"	1,000	481.0	12.0	17
"	500	191.0	7.0	10

注 1) 処理日：平成18年10月20日、調査日：10月27日

2) 比 数：無処理区を100とした場合の各処理区の比数

表 2 ホスチアゼート30%液剤による樹種毎のネグサレセンチュウ防除効果

供試樹種	供 試 薬 剤	ネグサレセンチュウ密度(頭/土壌20g)			比 数	
		処理前	処理後日数		処理後日数	
			7日	66日	7日	66日
イヌツゲ	無 処 理	20.0	20.0	19.0	100	100
	ホスチアゼート30%液剤1,000倍	17.3	3.8	3.0	19	16
キャラボク	無 処 理	20.5	18.8	13.5	100	100
	ホスチアゼート30%液剤1,000倍	16.3	2.3	2.0	12	15
ヤマモミジ	無 処 理	294.5	60.8	61.0	100	100
	ホスチアゼート30%液剤1,000倍	605.5	11.8	15.0	19	25

注) 処理日：平成18年12月5日

調査日：平成18年12月13日、平成19年2月9日、4月22日

表 3 ホスチアゼート30%液剤1,000倍処理による薬害発生状況

処理時期	供 試 薬 剤	イヌツゲ	キャラボク	ヤマモミジ
夏季	無処理	5.0	5.0	5.0
	ホスチアゼート30%液剤1,000倍	5.0	4.4	3.2
冬季	無処理	5.0	5.0	5.0
	ホスチアゼート30%液剤1,000倍	5.0	5.0	5.0

注 1) 夏季処理日：平成18年6月11日、調査日：平成18年7月4日

冬季処理日：平成18年12月5日、調査日：平成19年2月9日

2) 薬害評価基準：1 枯死、2 甚、3 中、4 軽、5 無

[発表及び関連文献]

平成19年度生産技術部試験成績書(予定)

[その他]